

つっかいぼう通信 第76号

編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつっかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4番1 パセール長良 103号

TEL 058-215-7374 Fax 058-296-5343 e-mail tsukkaibo@ip.mirai.ne.jp

<http://tsukkaibo.com>

発行／2014年 02月12日



第7回 卒後を考える交流集会 ～in 岐阜～

ビー・カンパニー餅つき

第2回 ふれあい祭

り



ビー・カンパニーの餅つき

に行ってきました

1月25日土曜日、ビー・カンパニーでは、成人のお祝いと交流を兼ねて餅つきが行われました。

ビー・カンパニーの仲間やつかいぼうの仲間は勿論、いつも協力して下さっているボランティアの学生さん、地域の方々や自然食品の販売でのつながりの方、オルタ食堂のお客様、将来の働く場や生活の場を目指して楽しみながら頑張っている障害を持つ子供とお母さん達等々…古い関わりの方から最近の方まで80名ほど集まって下さいました。

せいろで餅米を蒸し石臼と杵で2升ずつ3回お餅をつきました。車いすの人も大人も子供も一生懸命ついていました。雄姿はつかいぼうのホームページやビー・カンパニーのブログをご覧ください。あんこ、きなこ、大根おろしの3種類を用意しました。6升は食べられないだろうと思っていましたが、いつの間にかすっかりなくなっていました。

前日から障害者スタッフが野菜の切り出しなどの準備をしてくれた大量の味噌汁もほとんどなくなり、皆さんに喜んで帰っていただけたかなあと嬉しく思いました。

食品や料理はメッセージだと思います。どんなことを願って作るのか・売なのか・買うのか…。例えば野菜を作る時に誰かの生活を踏み台のようにしていないかを考え、作り手の生活が成り立つように、また環境を損なわないように、作り手と食べる人の健康を損なわないようにという願いと共に人から人に渡っていくのだと思います。今回の餅つきに集まって下さった方々を見て、育てる事から食べるこ

とへと同じ思いでつながり広がっていくことはとてもいいことだと改めて思いました。そしてその中には障害のある人も存在する。儲ける事を最優先し生きる者の命や生活を踏みにじるあり方でなく、共に生きるための仕事(オルタナティブな仕事)が出来たらと思いました。

今回参加された中でご紹介したいグループがあります。

一つは「まあふみふみ」さんです。この不思議な名前は障害を持つ子供さんたちの名前を連ねたとのこと。岐阜市栗野に一件の民家を借りて毎週月曜日にカフェを開いてみえます。一度お邪魔しましたが地域の方が絶えることなく入って見えました。玄関先のお庭や室内はお母さんたちの手仕事で可愛くてきれいです。ホット落ち着ける心地よい空間で、お手製のケーキもおいしくお得です。将来の子供たちが安心して地域の中で暮らしていけるようにと地域向けの料理教室や子供たちの料理教室、お泊り会…色々と企画しておられます。お近くの方もそうでない方もぜひ一度お越しください。

もう一つは「雑貨屋ハッピーファクトリー」さんです。ハンドメイド作家さんの作品と布雑貨のお店で、障害者の働く場所を作りたいと考え、移動販売の雑貨屋さんから普通の雑貨屋さん岐阜市前一色にリニューアルオープンされました。障害者が笑顔で豊かな人生を送れる場所を作る事を目標に作品の製作と販売に親子で頑張ってみえます。たくさんのハンドメイド作家さんからの100近い商品のほかにオリジナルで布ナプキンや空気パンツを作り販売してみえます。とても丁寧にまた改良を重ねて作ってみえますが値段は驚くほど安いです。ご存じない方もおられるかもしれませんが、布ナプキンは体を冷やさず、化学物質を使用していないので様々な効果があるようです。空気パンツもゴムの締め付けがないのでリンパや自律神経無ホルモンバランスの働きを促進させ、免疫力アップにつながり卵巣も本来の働きを取り戻すと言われていています。

布ナプキンはオルタ食堂にも置いてありますので、一度ぜひお試しく下さい。ちなみにオルタで作っているジャムはハッピーファクトリーさんに置いていただいています。

いろんな方たちと出会いながら楽しく活動していきたいと思えます。

さて最後に今年成人式を迎えた友里ちゃんです。これからの人生、色んな事をいっぱい経験して、友里ちゃんらしく元気に生きて行ってほしいと思えました。ビー・カンパニーやつかいぼうは何が出来るかなあ、困ったときには頼りがいのある場所や仲間になっていないといけないなあと思えました。最後にカンパニーの仲間たちと記念写真を撮り解散しました。お餅は今回4個食べました。(吉田朱美)



近況報告

25周年を前にこれまでで最長ではないかと思われるほど長い発行までの期間がありました。申し訳ありませんでした。平成24年4月より活動部門に職員が1名入ったおかげで、やっと身軽に動けるようになりアチコチしている内に通信に手が回らなくなった事、相談支援事業を始めて計画相談が入り時間がとられる事、母親の認知症が進み、最近では父親も…、これまでのように自分の時間で生活出来なくなった事等などが理由かと…言い訳めいたことを言っていますが、何年たっても編集体制が作れない事が一番の問題です。(もともと、私的には通信は出来なかったけれど、どの時間も充実していますが、やや充電できた感があります。)自分ではなく、つかいぼうの近況報告(昨年5月17日～現在まで)に移ります。

その1 第7回 障害のある人たちの卒後を考える交流集会 IN 岐阜

75号でお知らせした「第7回 障害のある人たちの卒後を考える交流集会 IN 岐阜」は6月22・23日にわたって講演、分科会「暮らす事」「働くこと」、懇親会が行われ全国から80名ほどの参加者がありました。主に地域の普通学級で過ごし卒業した子供たちが卒後もどうすれば地域で働き暮らし続けていけるのかをテーマに分科会に分かれて討論されました。私が出た分科会は「暮らす事」でしたが、一日目は現在岐阜で行われている「ケアホーム」「生活介護」「週1回のカフェを開きつつ地域の人との交流や子供たちの体験の場の運営」についてのお母さんたちの実践報告と質疑や各地からの取り組みが話され、二日目はヘルパーを使って暮らす人や生活に入っているヘルパーから、その暮らしぶりや良い支援とはといった内容が話されました。今ある制度を漫然と使うのではなく、本当にその人らしく地域で

生きることを支援するものであるかを悩みつつ実践している人達、制度自体が十分に利用できず、町と支給決定時間を巡って裁判で争っている人、卒業後の進路がまだ見つからずどう動いていいのか一歩踏み出せない人…様々でした。迷いながら進路を模索している姿を見て少しホッとしました。一日目の夜の関係者の会議で、交流集会はこれからは事務局体制を持つことに決定し、来年は静岡県三島市での開催が決まりました。交流集会の記録を簡単にまとめたものがありますので、必要な方にはお分けします。



その2 まつり

10月12日土曜日、第2回ビー・カンパニーふれあいまつり

を施設建物と駐車場を会場に行いました。今年はいつもの手配りより広範囲に新聞の折り込みでチラシを配ったので、民生委員さんや隣の地区の役員さんが魔法使いの姿で飛び入り参加してくださいました。昨年より小学生の姿は少なかったようですが、訪れて下さった方はゆっくり過ごされ談笑される姿もあり、昨年より少なめに準備した食べ物は早めに売れてしまいうれしい誤算で残念でした。少しずつ認知されてきたようでうれしく思います。また今年のイベントの一つである手品や腹話術は懐かしい出し物で大人も子供も障害のある人も受けていました。まつりに慣れてきたのか障害者スタッフも自分の分担の仕事をしっかりとこなしていました。

その3 カレンダー販売

これまでずっと法人で販売してきたカレンダーを今年から販売作業のみビー・カンパニーに委託しました。みんなの仕事と収入作りと、カレンダー販売の後継者作りです。カレンダー販売はつかいぼうでの初めての働くことの取り組みでその後の作業所作りにつながっています。自分に出来る作業はやり、出来ない事は出来る人の力を借りて一つの仕事を完成させる事を身につけてほしいです。この販売を通して自分たちの活動を伝え協力を求め、つながりを作りそれを大切にしてきました。多くの方が支えていて下さることを直接感じる事が出来る作業です。仕事だけでなく活動にもかかわってほしいと思っています。

去年のカレンダーの発送元がいつもと違うことに気付かれた方もありますが、今後ともよろしくお願い致します。

その4 カルタ絵札

ビー・カンパニーへの引っ越しを契機にこれまでヴァリエーションの二階にずっと残してあった大カルタ会の第1回目からの絵札で現在使っているものを残して処分しました。歌の作成から絵の作成、カルタ取り大会…実に多くの方々の長年に渡るご協力があり、いずれにも思い出や愛着があり、できれば本当に手放したくなかったのですが、収納に限りがあり思い切りました。130枚ほどあったそうですが、一枚一枚写真に収め、歌と使用した大会を記してパソコンに収めてあります。近いうちにプリントし一冊にまとめ誰にも見える形にしたいと思っています。「つかいぼう25周年」今年の「大カルタ取り大会」にはひとまず見ていただけるようにします。お楽しみに。

その5 ヘルパー研修、規則

久々に重度訪問介護従業者養成研修基礎課程・上級課程を行いました。慢性的なヘルパー不足が続いています。一人でもヘルパーとして働いてもらえたらなあと思っています。重度訪問介護はヘルパー不足だけでなく実施している事業所自体がとても少なく、探すのが大変という実態があります。指定をとり名前を掲げていても、儲からないため、実施しないところが幾つかあります。

編集後記

■この度の「25周年記念 講演と映画の集い」の事務局を担当しております後藤です。昨年の夏の初めから、他の役員さんたちのご協力をいただきながら、この企画の準備を進めてきました。

「開催はまだ先だよなあ」とのんびり構えていたら、あっという間に開催までひと月を切ってしまう、あたふたしながら準備に追われています。

先日、この講演会でご講演をさせていただく牧口さんとお電話でお話をする機会がありました。直接お話をさせていただくのは初めてでしたが、テレビや講演会などでお聞きするのと同じ、いやそれ以上にソフトであたたかみのある素敵なお声と話し方をされていました。当日、皆様と一緒に牧口さんのお話を聞かせていただくのが、ますます楽しみになりました。

ご参加をいただく皆様の心に残る会となるよう、関係者一同頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。(後藤)

■この正月は…、いつも早く書き上げる年賀状が今年は年末ギリギリだった。来年はもう書かんと言っている。お年玉の当選番号を調べる事が出来なくなった。元旦、神棚にお供えとロウソクで拝礼を全く忘れてた。去年は神棚は祭ってたのに。その前の年はファンヒーターの灯油の扱いが悪く水が入り、家のヒーターは全滅した。その前年は電気毛布のコントローラーが度々紛失し

結局は何枚か買い足した…。母に対する沸点が年々低くなってきている。(それは私もおんなじか…)この人もまた順調に進んできています。2012年の高齢者数は3079万人。内15%が認知症数にすると462万人。いつまで家族一緒の生活が出来るだろう。母はすでにデイサービス、デイケア、ショートステイ、マツの貸与等介護保険を目いっぱい利用している。障害者と高齢者は同じか違うか、人はどうやって暮らしているのが一番幸せか、呆けられると何がつらいのか、目の前でむちゃくちゃ言ったりわめいたりしているこの人に何がしてやれるか。周りの大変さばかりが言われるけれど解らなくなっていく自分を取り戻そうと必死に戦い負け続けていくこの人たちの恐怖や不安悔しさはどう支えられているのだろう。介護する家族は様々な決断はどうやって下されていくのか。改めて障害について思い、たまには記したいと思います。